

第5・6学年 家庭科

児童の実態（7月現在）

<p><実態の分析> 観点別結果の分析</p> <p>○関・意・態度→どの題材においても、興味関心が高く、大変意欲的に取り組む児童が多い。</p> <p>○創意工夫→家庭生活と関連付けて考えをめぐらし、新しい方法や手段を見付けることを苦手とする児童がいる。</p> <p>○技能→細かい作業にも根気よく取り組む児童がいるが、なかなか進まない児童もいる。</p>
--

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材計画や、本時の目標について明確に示す。 	<p>[指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活と関わらせながら学習に取り組めるように、目標を明確に示す。 	<p>[補充的な学習指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業の進み具合に応じて、児童同士で進めるグループや指導の必要なグループに分け、学習効果の向上を図る。 ・個別に指導が必要な場合は、休み時間や給食準備中の時間を活用し、支援にあたる。
<p>[学習形態]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材に合わせた形態を考え、安全に学習ができるようにする。 	<p>[学習形態の工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉学習、グループ学習、個別の学習と常に学習効果を考えながら進め、安全面の配慮を怠らない。 	<p>[発展的な学習指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ミニ先生」を教師が依頼し、分からない児童や作業が遅れがちな児童への支援をする。そのことは自分自身の能力向上にも繋がる。 ・作業が早く終わった児童には、自分自身で新たな作品作りができるように、型紙や刺繍の図案、布などを用意し、積極的に手の巧緻性が高まるようにする。
<p>[発問・指示・板書計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問内容を吟味し、指示をはっきり伝える。 ・黒板やICT機器の活用を図る。 	<p>[発問・指示・板書の工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される質問への解答や学習過程の見通しをもつことができるように、プリントやICT機器を活用し、分かりやすく説明する。 	
<p>[教材の活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の実態に合わせた教材を活用し、深い学びができるようにする。 	<p>[教材の工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段階・完成見本を準備し、個々の児童が自分で学習を進められるようにする。 	
<p>[評価の方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察を怠らないようにし、「チェックシート」への記入を心掛け、次時へ生かす。 	<p>[評価の工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察による評価や、ノートやプリント記述による評価、テストによる評価を行う。 	

<評価・修正>

[評価] 本時の目標、活動内容を明確に示したことで、見通しをもった活動ができた。児童がつまづきそうな部分や、理解が難しそうな所は具体物や映像などを用いたことでスムーズに学習が進められた。児童同士の教え合いは互いの能力向上につながったので今後も意図的に続ける。

[修正]

裁縫や調理実習などは、児童観察が偏りがちになるので効果的な方法を考えていく。教材忘れが多いので、担任と連携を取りながら指導をし、スムーズに学習に取り組めるようにする。